

教 育

小学生

中学生

高校生

NIE



花巻市の大迫高(大木由里校長、生徒55人)は、総合的な探究の時間で「地域から学ぶこと」と「興味関心を追求すること」の両方に取り組む。特産品ブドウの収穫や市日への参加を通して地域の良さを吸収。さらに個人でテーマを自由に設定する班もあり、豊かな発想で学びを深めている。つややかな太粒のブドウ

大迫高

発想豊かに地域貢献



ブドウの収穫を体験する大迫高の生徒たち

が、枝からいく房も下がる。人が収穫を体験した。実際に9月上旬、同市大迫町の鈴木寛太さん(22)の農園で1、3年生36人と保護者13人、箱に並べた。



自宅の菜園で採れた野菜を使って減塩料理を作る藤原愛さん(左)

千葉楓斗さん(1年)は「一粒一粒が立派で大きくてびっくりした。ブドウ園は坂になっていて、歩くのは坂になっていて、歩くのも大変。毎日作業している農家さんはすごい」と汗を流し、作業に没頭した。体験は別の農園でも行われ、

生徒全員が地域の特産品に触れた。本年度の探究は5班に分かれて実施。地域の特産品に関するのは「ぶどう販路拡大サポート班」「お土産プロジェクト班」が中心だが、ブドウ収穫や地元の市日には全校生徒で参加し、地域への理解を深める。その上で、各班ごとにそれぞれの関心やアイデアを元に、地域に貢献する方法を模索。10人のメンバーが参加する「大迫探究班」は、特に自由なテーマ設定でアプローチする。藤原愛さん(3年)は、野菜嫌いな人でも食べられる減塩料理について探究。地元の栄養士に指導を仰ぎ、自宅の菜園で採れた野菜を使って鶏肉とガツの煮物などを試作した。「飲食店で販売してもらつてみたい」と語る高橋さん。動物好きの平置瑞果さん(3年)は、動物の殺処分

ゼロを目指す自治体があるについて調査。愛宕動物看護師を目指しており「自分の未来に直結していることを学べるのはうれしい」と学習の意義を実感していた。学年を超えたチームで取り組む生徒も。高橋悠斗さん(3年)、菊池景介さん(2年)、木村健太朗さん(1年)の3人は、ドローンでブドウ園を上空から撮影し、YouTubeで「おほさま高校ちゃんねる」として紹介。今後も地域の特色ある風景を投稿していく予定で、県の動画コンテストにも挑戦するつもりだ。「とちもやりがいがある。とんどんやりたいことが広がっていた。1年からは、より内容の濃い活動にしたい」と語る高橋さん。目を輝かせる姿から、授業の充実度が伝わってきた。(「教育・高校生」のページに随時掲載)